

令和5年4月4日 議会改革特別委員会 議事録
10時00分 開会

○出席委員 (8人)

委員長 網谷 芳孝

副委員長 西村 一啓

委員 藤川 和弘、原田 孝徳、小中 真樹雄、小田上 尚典、北地 範久
日域 究

議長 賀屋 幸治

○欠席委員 なし

○網谷委員長 皆さん、おはようございます。

定足数に達していますので、これより議会改革特別委員会を開会いたします。

それでは日程第1に入らせていただきます。

前回、他の自治体の議会モニター制度については、モニター人数、また公募の方法、報酬、任期、活動など様々な議会の方針で取り組まれておると思います。委員の皆さんにもう少し聞いてみたいと思いますが、よろしいですかね。

1か月間じっくり考えていただいたと思いますので、自分の意見等ありましたら、1人、二、三分程度で説明していただけたらいいと思いますが、よろしいですかね。

小田上委員。

○小田上委員 おはようございます。

議会モニター制度を導入するに当たって、目的が気になりまして、何のためにやるかが一番だろうと思います。その目的を達成するためにどの手法がいいかという順番で考えていくのがいいのかなと、取りあえずモニターだけやっちゃえばいいやということにならないように。個人的に思ってるのは、議会モニター制度を通して、議会の取組への理解と関心を持ってもらうことを目的にしてやっていくのがいいんじゃないかなと思います。

市民の方の意見を議会に反映させるというのは、常々皆さんいろんな形でされてると思いますので、議会の取組を広くお伝えすることを重ねて、どう伝えていけばいいかという意見を市民の方からいただく。なので、議会の取組の理解と議会の関心を持ってもらうことを目的にモニター制度をやるというのがいいのかなと思いました。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

北地委員。

○北地委員 おはようございます。

私も、会派とも話はしたんですけども、やはり何を目的とするのかが一番だろうかなと。その中で方法論を探していくのが一番じゃないかなとありました。

やることについてはやぶさかでないんですが、どのような形でするのかももう少し具体的に絞っていかないと、判断までしかねるという意見が出てきました。モニターを誰にする

かとか、例えば市民にするのか専門家にするのかとか、そのほかにもいろいろあるでしょうけども、そういった形をどのように取っていくのかというのがもう少し具体的にならないと、是非の判断はなかなかしにくいという話が出ました。

どのようなやり方がいいのか、そういったところについてはもう少し研究をしたほうがいいのではないかと出ました。この前の土山先生とかそういった専門家に相談するなり、研修を開催するなり、そういった方法でもいいんじゃないかなというのがありました。

それと、近隣の実施している自治体にアンケートをすとか。全国でも30議会ぐらいしかないので、アンケートをして、やってよかった点、悪かった点、反省点、それからぜひやってくださいとかいう意見をもらうとか。

やることについてはやぶさかではないんですけども、そういったところでもう少し研究を深めてもらいたいという意見が出ております。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

原田委員。

○原田委員 似たような意見になると思うんですけど、まず、目的意義をしっかりと決めてやらないといけないと思います。拙速にやるのではなく、時間をかけて研究してからやればいいんじゃないかなと。

議会モニターをやるのが目的じゃなくて、議会の中身とかを知ってもらうことが、まず、一番かなと思うので、そういう取組から最終的に議会モニター制度という方向に持っていったらいいのではないかなと思います。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

日域委員、よろしいですか。

○日域委員 会派で話をしたわけではないんですけど、もともといろいろ難しい面がありまして、市政に関心がある人がいて初めてこれが機能するんですよね。だから、議会からお願いしてなってもらっていうんじゃないかあ本当はちょっと物足りないんですけども。ただ、何かしたらいいなと思いますけども、さっき北地委員がおっしゃったみたいに、誰にするかというのがあって、無責任にああだこうだばかり言う人も中にはいますから、そういう人でも困るし、充て職じゃないにせよ、最初から相手が決まるような形でお願いするという手もあるかもしれません。うまくいったらいいことだと思います。

以上です。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 私が想定してるのは、新聞紙上で行われている紙面批判会、テレビ番組で番組編成に対して意見を求めるような審議会みたいな、議会の監視機能を持たせることによって議会の活性化を図っていくという方向が私は適当ではないかと思ってるんです。ただし、議会モニター制度をやるかやらないかというのをまず決めるのが第一だと思います。細部はいろいろあると思いますが、問題なのは、我々の任期が8月31日までで、その間に選挙

もあることですし、どこまで決めていいのかというのが非常に悩ましいところではあると思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

藤川委員、よろしいですか。

○藤川委員 私も他の委員さんおっしゃるように何を目的とするのか、これが一番大事なところかなと思っております。

議会モニター制度に取り組まれている市議会のホームページをのぞかせてもらったんですが、議会モニター制度といえどもアンケートだけのところ、市議会を傍聴していただいたり意見交換してるところとか、議会モニターさんに対して負担になるのかな。本当好きな人ならいいと思うんですけど、負担に思ってる人も多いのかなと。いろんなホームページ見させてもらいましたが、そんなに議会モニター制度に対して力が入っている、ここのいいなと思うところが私は見つかってません。

あと、議会モニター制度は人手不足、どこもそうだと思います。募集しても集まってないというところがありました。定員20名のところ10名しか今回集まりませんでしたとか、よく見ます。20名集まったけれども、実際参加している方が少なかったとかもホームページで見ました。あと実際に、やめたところもありました。

議会モニターになってもらう方ですよね。先ほどの先輩議員さんおっしゃいましたが、どういうふうに募集かけるのかということも大事なところかなと思います。あと負担にならない取組もしてあげなければいけないのかなと感じてます。

以上です。

○網谷委員長 どうも。ありがとうございます。

副委員長。

○西村副委員長 皆さんそれぞれの意見言われましたが、2月14日、3月2日の議会改革特別委員会でも、今日言われたようなことを皆さん協議されております。

先ほど私の会派の小田上委員が、代弁をしていろいろ言ったんで、重ねて申し上げるところがないんですが、ただ、前にも言ったように、私自身は、時期尚早ではないかという思いがあります。もっと慎重に調査をし、何を持ってモニターをかけるのかということもはっきりしないのに、ただ市内から人数だけ集めて、逆に言えば議会の監視をしてくれというようなものですからね、そののところはやはりもう一度皆さんで協議をする必要があると思います。

以上であります。

○網谷委員長 ありがとうございます。

議長。

○賀屋議長 前回に引き続き、なかなかすぐに結論が出ない課題だろうと考えております。

議会モニターは素晴らしい取組ではあるんですが、さっき北地委員からも紹介がありましたように、全国で実施をしているのがまだ30例ぐらいしかない。そこがどういう成果を上げているのか、評価される取組であれば、もっと広がるはずですけども、それがなかなか広がっていないということは、何らかのハードルがあって、その取組をしてもそれほど

の成果が上げられていない、また取組そのものが難しいのではないかという気がしております。

まず先進地をよく調査して、確認をしながら、本当に取り組むべきかを慎重に進めていくべきではないかなと思います。当然、モニターをお願いする方にも負担がかかるし、また、担当される議員あるいは所掌の委員会にも負担がかかる話でございますので、その辺りは、本当にその効果が期待できるということが確認できないと、時期尚早なのではないかと思います。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

私、一委員としましても、大体皆さんと意見が同じでして、モニター制度について、皆さんから資料を頂きましたが、各地域で違うんですね。モニター人数といい公募の方法といい、それから報酬や任期など、全部とっていいほど違うんです。先ほど議長が言われましたアンケートにしても、難しいのかなという気もします。

先ほど副委員長が言われたように時期尚早ではないかということと、実行するまでにはは相当な研究と視察等を重ねていかなければならないのかなという感じがしておりますが、皆さん、意見がありましたら述べていただければと思います。

小中委員。

○小中委員 取りあえず、時期尚早というのはよく分かりますけども、どうするのか、する方向でいくのかしない方向でいくのかだけは決めたほうがいいんじゃないかと思うんですよ。

我々の残りの任期で全部決めていいのかというのは当然あるわけで、個人的には成果がどうのこうののではなくて、例えばユーチューブとかで放映したら質問が増えるとか、誰かが見ていることによって何らかの効果はあると思うんですよ。それが、全てプラスの効果かマイナスの効果かは知らないけども、いずれにしても、どちらの方向で行くかだけは決めないと、やるんやったら一つ一つその課題を片づけていかんとあかんし、そうじゃないんやったら、もうやめとこうという早く決断するのは、それは一つの手かなと思うので、いずれにしてもどちらの方向で行くかだけは決めたほうがいいと私は思いますが。

○網谷委員長 ありがとうございます。

そのどちらの方向がなかなか難しいところなんですけどね。

今回、ここ一、二か月でこの話題が出たばかりなんで、方向性としてしましては前向きに取り組む、そしてまた改選後、次の議会にお任せして、いい方向にという言い方ぐらいしかできんですが、どうでしょうかね。

日域委員。

○日域委員 残りの任期で物事をやることは無理だと思います。

だけど、次のメンバーの参考になる、役に立つ何か基礎になるものなり決めておけば次は楽かなという気はするんです。ぱっと見、こういうモニターっていいなと私も正直思ったんですけども、いざやろうと思うといろんな段階で課題があつて、そもそもそんなことに強い関心を持ってる人がいれば、ある意味では議会もこんな状態じゃないでしょうから、

やはり難しいですね。

もう一つは、行政って分かりづらくて、議員をやってもあのときはさっぱり分からなかったよねということがたくさんあるわけで、一般市民の方が、行政の中身を批評できるぐらいの情報量があるかというたらとても無理なんですよ。だから、そこも含めて難しいよねとすごく思います。

本当に議論になって何かをやるべきか、やらざるべきかといってそういう岐路に差しかったときに尋ねるんだったら分かりやすいと思いますけども、日々の淡々と事務処理をしなくちゃいけないことが多いわけですけども、そういうことについてモニターといっても、モニターになった方も言うことがないですよ。

だから、ちょっと最初の一步ぐらい決めたらいいなと思いますけども、今何とも言うわんです、それ以上は。

以上です。

○網谷委員長 最初の一步という表現になるんですが、どなたかいい言葉がありますかね。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、いい言葉があると思って手を挙げたわけじゃないんですけど。

今回、次回でやるやらないという判断は難しいんじゃないかなと思います。協議を重ねていった結果、効果が薄いかもしれないという結論が出る可能性もあるとは思いますが、ほかの市議会のモニター制度を見てると、議会を見てざっくりとした意見をくださいみたいなものが多いと思うんですね。毎回議案を審査してるところを見てもらって、じゃあ、この審査は深掘りができてないんじゃないかとか、何でああいうこと聞かないんだとかということ市民の方をお願いするのは酷かなと思います。若い子連れてきて見てもらったりした経験もありますけど、これは分かりましたというものがある程度で、その中でどういう感想だったと聞くと、あの議員さんはしゃべり方が分かりやすかったとか、あの議員さんのときにこういう質問が出ててすごいなと思ったとかというのは出るんですけど、じゃあ内容について具体的に審議内容についてどうだったかというのは難しいと思います。

なので、そういう現実的なところを考えていくと、こちらからこういう内容のものを取り組んでますと情報提供をして、だったらこうしたらいいんじゃないかというワークショップ形式のようなモニター制度の活用の仕方。

もしくは、単純に見てもらってざっくり全体的な意見、もっとこういう運営をしてほしいというような意見をもらう。あまり専門性のないものしかお願いできないと思うので、その中でできること、目的となるものとすれば知ってもらう、どういうふうにお伝えすれば分かりやすいですかねというところを伺って、これだと分かるよという意見をもらうというために目的にしてあげれば、モニター制度という活用はしやすいのかなと思います。

議会報告会をやるタイミングで広報など意見もらうタイミングもありました。なるほどなと思うこともありましたんで、ただ議会報告会というのかなり準備だったりテーマ絞ったりとかありますから、そういう議会報告会から市民の方の意見をもらう、それだけの要素を持たせたモニターというのは一つなのかなと思いました。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

特別委員会のネット中継の実施を決めたことで全委員会が放送され、これも意見を吸収する一つ的手段ではないかと思っております。そういうことを踏まえてモニター制度の位置づけをどういうふうにするかが問題ではございますが、どうですかね。

日域委員。

○日域委員 基本的にはモニターの人に対して、どう思われましたかって尋ねる前に、難しいんですけども感想を聞く前段階としての情報提供というのが足りないですよ。その仕組みの問題や、その中身もあるし、テレビやネット中継やってますけども、資料はないんですかね。議案などの資料はネットで見れるのかな、概要が出てるんですかね。

だから、そういうのもあって、一般の市民の方が行政の仕組みも詳しくないし、なかなか現実になるのは難しいなと思います。でももうちょっと解説というか情報提供というか、そういうものを持つとしたら、何か反応がもっとあるかもしれないと思いますけども、どっちにしたって大変です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

先ほど、小中委員が言われた、実行する方向で議論するか、しっかり研究等を重ねて方向性を決めるという、2つの意見があるんですが。大体難しいのは難しいんですがね。

何かほかに意見があれば。

小田上委員。

○小田上委員 僕が言った意見は、モニターの皆さんに意見交換を重ねて議会を知ってもらう作業をしてもらう。議会報告会だとどなたが来られるか分からないという状況ですが、モニター、もし固定されれば、その方と幾度かにわたって意見交換を行えて、徐々に分かってきて回数重ねれば重ねるほど具体的な意見だったり、中に踏み込んだもの理解を得られたものもいただけるんじゃないかと思えます。

最初に思ってたモニター制度がこう変わっても、ある一定の期間で実現できるのかなと思って、あと、小中委員の言われた議会の監視機能というところも、僕はそれを意見交換しながら知ってもらうアンケート像というのを考えて、小中委員は具体的に新聞の紙面批評であったり、テレビの制作だといって例記されたんで想像しやすいんですけど、ほかの方がどういう議会モニター制度というものを考えられてるのか浮かなくてこないで、これがいいな、あれがいいなという議論ができたらなと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

藤川委員。

○藤川委員 いろんな方法があって、確かに監視機能も大切なことだと思うんですけども、私のイメージしている議会モニターは、北海道の芽室町が議会モニター制度でよく出てくるところなんですけども、地域の資源を活用した観光の振興とか、農村地域の公共交通の手段を市民の方と意見交換して、地元の活性化に向けた取組をしているところがあります。こういう話しだと、私たちも楽しいのかなと。

議会報告会のイメージではないんです。みんなと一緒に大竹市をよくしていこうという感じには見えなくて、ああしてください、こうしてくださいという議会報告会のやり方で

はなく、こうしたらいんじゃないん、ああしたらいんじゃないんという大竹市の未来をみんなで考えていくというものを私はイメージしております。

○網谷委員長 ありがとうございます。

小中委員。

○小中委員 今、藤川委員がおっしゃった、北海道芽室町の例は、早稲田大学マニフェスト研究所がかなり推奨している例で、これ政策提言型の議会モニター制度なんですけど、最初から取り組むには難易度が高いんじゃないかと思ったんですよね。議会モニター制度を導入するにしても、最初からいきなり結構最先端のところを取り入れるというのはちょっと難しいかなという気はしましたね。

だから、先ほど申し上げましたけども、方向性すぐ決めるかどうかは、もう残りの任期でやるとしたら問題点の摘出とかをやって、どっちにするかの材料を何個か出していく方法しかないのかなというような気もしております。

○網谷委員長 日域委員。

○日域委員 やっぱりそういう知識集団がそれなりにいろんな情報を分析して、そこに当然政策的な色合いも出るんでしょうけども、議会がやったんじゃまたおかしいですから。本当は第三者的な人が、今大竹市はこんな状態にあり、大竹市の課題はこうですよと、我々から見たらこのまちの課題はこうですよというようなものを提示してくれれば、そうしたらわしはこう思うよって皆さん言いやすいんですけども、素材としての議会を見てくれとか、今の表面的に見えるものだけから何か意見を言えといっても、さっきの小田上委員のおっしゃった若い人や本当知らない人が急にこのまちに来て表面的な現象を見ても、なかなか分からないでしょうからね。考えれば考えるほどハードルは高いですよ。

でも本当、市職員のOBぐらいいろんな過去の経緯とか現在の状況とか分かっている人が、解説でもしてくれれば、また違うんだろうなと思いますけど、議会がそこまでの話かという話もありますから、難しいなと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

北地委員。

○北地委員 ちょっと今、私迷子になりそうなんですけど、一番最初から流れをいうと、皆さんの意見を聞いて感じたのが、目的をはっきりさせにやいけんねというのが1つありましたよね。それから、今は早いんじゃないかという意見もありました。それで聞きよる間に、今我々の委員会の中で先行きを決めるのはいかがなものかという意見もございました。突然また今後のモニターをやるとしたらこんな形がいいんじゃないかという話になってきて、進めるのか止まるのかどっちの議論をしているのかよく分からなくなってきたというのが本音のところですよ。

私の意見としては、先ほどもありましたように、この委員会の中で実行するせんを決めるのはちょっと無謀だと思います。次の委員会メンバーに決めていただければいいんじゃないかと思いますが、そこまでのステップを踏むための基礎資料を出しとけばいいのかなという思いではおるんですよ。

先ほど、小中委員が言った、やるやらんを判断するための材料の一部を提供できるぐら

いのことしかできないのかなと思って、どこまでの議論を今していくのか迷子になりそう
なところなんですけど。

というところで、何をターゲットに今議論すればいいのかまとめていただければと思う
んですけども、そこをお願いします。

○網谷委員長 まとめということで、結論的にいえば、先ほど言いました我々議員もあと数
か月の任期ですので、この難しい議会モニターの制度について、結論的なことや方向性に
しても難しいのではないかと実際考えております。

最終的には方向性というにはならないかも分かりませんが、というのも、かなり複雑な
といえますか、単純なものではないと思いますのでしっかり議論を深めて結論を出す必要
があるのではないかと感じております。

いやいやそうではない、もっと単純に簡単に考えればいいんじゃないとう意見もあろう
かと思いますが、そんなところをどうなのかなと思う次第でございまして。

どうぞ。

○日域委員 本来からいえば、本当にレベルの高いモニターから意見が上がってきたら、そ
れはまたこっちは大変なんですけども、幸か不幸かそんな人がいないということなんですけど。
私申し訳ないけども、あまりほかの事例を研究まではしてないんですけども、全国に千数
百の自治体があって、その中でモニター制度を導入してるところが結構少なくて、その中で
外部から見ているいいねというものも芽室町が出て、小中委員の解説もありましたけど、そう
いうことをして見てみるとなかなか難しいよねという。ただ、地方自治の研究してる学校の
先生がいますよね、ああいう人とかが絡んでくると、ちょっと中身濃くなるんですけど
も、あの方たちもある意味では仕事ですから。だから、本当はそんなんじゃないなくて、自発
的、自主的にできたらいいんでしょうけど、なかなか描きにくいねと。やろうと思えば簡
単でしょうけども、確たる成果がないままどうしようかねということをもた議論すること
になるかもしれませんよね。

やっぱり意見を言うだけの情報がないんですよ。もちろんそれを理解する能力がなかつ
たら無理ですけども、行政ってそこまでオープンじゃないですから。そこが根本的な課題
だと思いますし、逆に言うと、議会でもそんな議論をしませんよね。私がいつも一番頭
来るのは反問権の話ですけど、反問権があるかないとか、そもそも誰が言うんやって、
民主主義の原点みたいなイギリスの国会なんか、私英語よく分からないからあれですけど
も、反問権もくそもない議論をしてるんじゃないかと思えますけども、日本の場合は、国
会見ても地方議会見ても優しいですよ。もうその辺にも違いがあるのかなと思えますけ
ど、だから、ひょっとしたら議会の中のやり取りを充実させるほうが先なんかもしませ
ん。勝手なことばかり言って申し訳ないですけど、今思ったことです。

○網谷委員長 ありがとうございます。

出発点は令和元年の市議会議員選挙の無投票ということで、それから開かれた議会とか
どのような改善が必要かということで、議員の成り手不足に関する要因、解消とは何かと。
今までやってまいりました5つの項目を検証しながら、議会モニターも取組の1つではあ
るんですが、大きなテーマのような気がします。議会モニターは、市民と一緒にやること

になりますので、この議論も皆さんと一緒に白熱しとるわけではございます。どうですかね、副委員長。

○西村副委員長 皆さんの意見、それぞれあるんですが、全体的に見ましたら、さっき小中委員が言われたように8月が目的じゃないんですから、我々8月までこの任期があるわけだから、委員長も言われたように4か月の間で、モニター制度を導入するかどうか、まず皆さんがそれぞれの意見を持ち寄って検討する必要があるんじゃないかと感じます。その中ですらんだったら、次の委員会にお願いをするという1つの方法もあるんですが、やはりある程度、結論といいますか目的は表示せにゃいけないのではないかと、私個人的には考えております。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

小田上委員。

○小田上委員 多分、今委員メンバー全員がやるやらないの決断は、この任期の中ではできないだろうと思われていると思います。なので、やるやらないの結論は取りあえず出さずに、次に委ねるとして、どういう材料があればいいだろうかという話題になればすぐまた前向きにできるのかなと思うんですけど。ただ、そのつもりでおるというのがまだ確認できてないので、委員長から聞いていただけたら、この任期の間にやるやらないは出さないけど、仮にやるとしたらこういうものが、判断するためにこういう資料が要るよねという話に入れると思うんですけど、いかがでしょうか。

○網谷委員長 前向きな意見をありがとうございます。

小田上委員の発言に対して、皆さん意見があれば発言していただければと思うんですが、どうでしょうかね。

小中委員。

○小中委員 モニター制度を導入するにはどういうことが必要なのかを一つ一つ上げていって、これはどうなんか、これはこういうふうになっていますよみたいな、次の議員たちの判断材料になるようなものがつくることができればと思います。残りの任期で全部できるかどうか分からないですけど。導入するかどうかという判断を我々がするのは難しいと思いますし、ただ、そういう意味でいろんな観点から、議会モニター制度のいろいろな種類もあるし、その中でやるとしたらこういうのが適当なのじゃないかなみたいなもあるし、あとやるためにはいろいろありますよね。例えば人選や謝礼。謝礼を考える場合には、予算も絡んでくるしいろいろ難しい面もあると思います。だから、やるためにこういうことが必要だよみたいなことを一つ一つ出していって、これはどうなんだろうかというようなことを一つ一つ検討して、資料として次に渡すみたいなことにならざるを得ないんじゃないかと思います。

○網谷委員長 何かあります。

北地委員。

○北地委員 小中委員の意見も確かなんですけども、そこまで行けるかなというのが本音なところなんですよ。

私個人的に思うのは、モニター制度の方向性とかそういったものは次期に委ねる中で、モニター制度の基礎的な資料、一番いいのは今やってる調査ですよ。他市町村がどういう形態やメンバーでやってますよ、それが議会においてプラス方向に働いてるのかマイナス方向に働いているのかとか、そういった基礎的なベースがあって、モニター制度がどのような状況にあるか。今の現状と課題とといいますか、そういったところの調査ぐらいまでしかできないのかなと思いますけども。

以上です。

○網谷委員長 そういう意味を込めて前回皆さんに資料を提供していただいたんですが、そのほかに具体的な資料みたいなものが要ということですかね。

○北地委員 端的にホームページ上じゃあまり実際のところが分からんと思うんですよ。実際にその議会に聞いてみると本音のところは分からんだろうし、そういったところの調査が要るのかなと思います。

○網谷委員長 具体的に言いますと、議会に直接行くとか電話で調査するとか、この文章だけでは分からないという意味のことですか。

○北地委員 分かることもありますけども、全部が全部出とるわけじゃない。

○網谷委員長 どうですかね、今の意見に対して。

小田上委員。

○小田上委員 よその事例というのも大切だと思うんですけど、藤川委員の紹介にあったように、大抵の事例うまいこといってないという話もあるので、よその事例で何かできそうなのやるといっても、こういうことをモニター制度入れて、こういうことを実現したいよねと。なので、一番最初に、市民に知ってもらおうというのが目的でいいんじゃないかなと言ってますけど、目的を決めてどういう方法があるか、独自なものでもいいのかなと思います。

そうであればあるほど、今やるやらない決められないよねという話かなと思いますが、いかがでしょうか。

○網谷委員長 独自の提案、議題というんですか、例えばどういうのがありますかね。

小田上委員。

○小田上委員 すごく簡単に言うと、モニター制度という名前。これは自分が思ってる案ですけど、議会報告会の中で要望や提案など前向きな意見交換ができる場面もあります。藤川委員も言われた、議会のそういう場面だけをつくる会みたいな、例えばテーマ決めてもいいと思います。こういうことについてどう思われてますかという意見交換を決まったモニターさんとやっていくというのが1つかなと思ってます。

そうすることによって、議会の取組の理解も得られるし、こちらもどう伝えればいいんだというのが分かると思います。

例えばそんな感じです。ただ、あまり具体的なものに入るよりも、こういう目的を達成したいんだという皆さんの思われてる想像、達成されてるゴールみたいなものが分かれば、具体的な提案もできるのかなと思います。こういう提案や目的がありましたとまとめて次の委員会の方にお渡しというのも1つかなとは思っています。

○網谷委員長 ありがとうございます。

意見交換をする人選ですと、また公募の方法論になるかと思うんですけど。いろんな方法があるかと思うんですが、その程度だったら今の資料の範囲で分かるんですが、その辺のところはどういうふうな考えがありますかね。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、そこまで考えてません。そんなきっちり考えてくるというよりも、こういうことを実現したいのでどう思われますか、こういう方法があるよねと、ある程度方向が決まっていったら、それを実施するためには、どういう公募の仕方がいいだろう、僕が言っただけで、ほかの方に賛同していただいてもないですし、もっといい意見もあると思います。なので、この程度の意見を出して、目的を決めるというのが先なんじゃないかな。目的決まらないとやり方決まらないんで。目的が違えば、やり方は全く違ってくると思うので。僕は分かってもらう、広めるためにやったらいいんじゃないかという目的で紹介させてもらいました。

○網谷委員長 ありがとうございます。

小田上委員の意見は、先ほどの藤川委員の意見に近いようなところがございますね。これからの大竹市のテーマを決めてというところでは。

それはもちろん、そういう方向になろうかと思いますが、あります、何か。

○日域委員 モニターという言葉もアンケートじゃないんですよ。例えば、小方駅を造ることになってますけども、あんなもの要るかという人が半分ぐらいいますよね。メリットもデメリットもあると思いますが、ああいう具体的なことになる、意見はそれぞれあるんですけど。

ある意味、モニターってそもそも何かだと思います。今日の議会はなかなか有意義だったとか、あのことがあってよかったとか、さりげないことを書いてくれるのがモニターのコメントみたいなイメージが何となく頭の中にありますけども、モニターに何を期待するかというのも、今のお話の中にあるんでしょうけども、そこですよ。どういうものをモニターに期待するかというのをまず決めないと始まらないですよ。その上で、やっぱりできないかもしれないし、ひょっとしたらできるかもしれないけども。

以上です。

○網谷委員長 1時間経ちましたんで、暫時休憩。10分ほど。

10時59分 休憩

11時10分 再開

○網谷委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を行います。

休憩前までにいろいろな意見が出ておりますが、それを踏まえて意見があればお願いします。

小田上委員が先ほど言われた、テーマを決めて意見交換ですが、議会報告会でもテーマを決めておるんですがね、フリーにするのかどうなのかというところもあろうかと思えます。その辺のところを踏まえて御意見があればお願いします。

先ほどから皆さん発言していただくんですが、意見そのものが行ったり来たりして、ど

うなのかなと私自身は思うんですが。この辺で議会改革特別委員会としての今期の任務と
いいですか、ちょっと大げさなような言い方をしますが、この議会モニター制度について
は、これくらいとしまして、取組を前向きに考え、改選後の新議会に委ねて、また協議し
ていただくということでしょうかね。

小田上委員。

○小田上委員 もう何もしなくて取りあえずあとは委ねるということで、ということですか
ね。

○網谷委員長 はい、そうです。

○小田上委員 こういう目的でやったらいいんじゃないかぐらいの意見は出して終わったほ
うがいいんじゃないですか。今、委員の意見は資料には全く出てない、ただ議題に上がっ
てただけになってますけど。こういう目的でやったほうがいいんじゃないかぐらいの意
見は出ましたはやっとかないと、何話したのってなりませんかね。

○網谷委員長 こういう目的というのは、先ほど皆さんが言われてるとおりだと思うんですが、
どうですかね。

小田上委員。

○小田上委員 次、この議会改革特別委員会も特別委員会なんであるか分からないですけど、
あるとして、お願いするのであれば、議事録を見てくださいというのも1つなんでしょう
けど、こういう目的でやったらいいのではないかぐらいの意見は皆さんから文章でもらっ
といて、こういう意見が出ましたということはできるんじゃないんですかね。結論は出さ
ないという方向にしても。

○網谷委員長 議長どうぞ。

○賀屋議長 今の小田上委員の意見は大変重要なポイントなんで、日程第2 中間報告の案に
ついて今から議論をしていくと思うんですが、中間報告の中に、このモニター制度につい
て、こういう意見もありましたということも含めて、中間報告書を作成したらいいんでは
ないかなと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

今の小田上委員が言われた各委員さんの意見を文章にまとめていただくということでは
かね。

○小田上委員 今、議長の言われた中間報告でというのはありますけど、中間報告もこの2
年間の活動ですよ。議会の定数についてどういう取組をしてきたかという委員長報告も
もちろん入るんじゃないかなと思います。

目的として提示されたものは、多分小中委員と藤川委員と僕かな。議会の監視をしてほ
しいと、藤川委員も、大竹市の今後について話をできるようなところと上げてくださって
ますけど、ほかの方の意見が分からないですし、特にならないういんですけど。こ
ういうものが資料としてありますよは提示しとかないと、委員長報告に任せますでいいの
かなと思うんですけど、いいんですか。何のためにこの1時間話ししたんかなと思います。

委員長から、目的案の提出を皆さんにお願いして、この委員会ではこういう意見を持っ
た人たちがいました、これも参考にしてくださいと。委員長報告も皆さんの意見がまとま

ったものがありますという報告にとどめられると思いますし、簡単に報告もしやすくなるんじゃないかなと思うんですけど、それじゃ駄目なんですかね。

僕がまとめるということではなくて、各委員から出してください。

○網谷委員長 各委員の意見として文章で出していただくという意味ですか。皆さんの意見を中間報告の中で、箇条書きでも載せるというのも大変な量になりますし、これはこれで議事録に載せていくというのも1つの方法かなと思うんですが、どうですかね。

小田上委員。

○小田上委員 議事録読んでくれというのは、正直無責任だと思います。なので、引き継ぐための資料を作ったらどうかという、ほかの委員の方の意見もありましたよね。引き継ぐための資料っていうので、各委員はこういう目的がよかったんじゃないかというものを持ってましたと。1つぐらい自分たちで資料を作って引き継いでもいいのかなと思います。

その資料がありますということだけ委員長報告で触れれば、委員長報告もそんな長くならず、細部まで説明する必要もなくなるんじゃないかなと思いますんで、ほかの委員の方が目的とかは出さなくてもいいと言われるんだったら、そこまでですけど、出したほうが次の委員会に引継ぎはしやすいのかなと思いました。資料として、議事録見てくれと言われたら、この1時間の中のどこを見ればいいのかというのが分からないと思います。

○網谷委員長 どうですかね。

小中委員。

○小中委員 要するにやるやらないじゃないわけだから、やる場合にはこういう目的でやったらいいという何個かの意見が出たというのを箇条書きにして、引継ぎすればいいだけの話じゃないかなと。あくまでもやるとしたらこういう目的の下にやったらいいではないかという意見が出ましたと。別に長々と書く必要もないし、議会よく知ってもらう、私の場合は監視によって議会が活性化するとか。藤川委員はまた違う目的がありますぐらいを手短かにまとめてそれを引き継げばいいだけの話で、そんなのが嫌だとかどうのこうのっていうてそんな大層な問題じゃないと私は思いますけどね。

○網谷委員長 要するに、皆さんの意見を集約したものを報告。

○小中委員 集約というか、あくまでも、それは次の人たちが判断することであって、やることを前提じゃなくて、モニター制度をやるんだったら、こういう目的でやったらいいんじゃないかという意見が出ましたという、その何パターンかのそれを引き継ぐことがそんなに難しいことなのかなと、それを一々やるとかやらないとかいうような話じゃないと私は思うんですけど。

○網谷委員長 小田上委員。

○小田上委員 小中委員が言ってくださったことは、委員長報告の中で触れずとも、この資料があるよということだけで、次、改選後のメンバーには伝わるんじゃないかと。こういう資料がありますということに委員長報告で触れてくれればいいんじゃないかということだったと思います。それを作る程度であれば大変じゃないんじゃないかと、小中委員が言っていたんじゃないかなと思います。

できれば、皆さんがこういう目的がいいと思うって、6通り、7通りぐらいあればよか

ったのかなとは思いますが、小中委員が言われる箇条書きで結構なので、こういう意見が出ましたというものが、今回の会議のまとめみたいなものがあれば大分違うのかなとは思いますが。

○網谷委員長 皆さんの意見を聴取して、一人一人の、意見を反映さすというふうな格好でやれば、かなりの文章の量にはなるんでないかと解釈したんですがね、全体の会議の流れの中で、要所要所を報告書の中へ入れるということで、よろしいですかね。

北地委員。

○北地委員 ちょっといろいろ話が出とるんですけども、早めに言えばよかったのかも分かりませんが。モニター制度の目的の中で、先ほど政策的な面を入れてもらいたいと。

そういった意見をモニター制度を使う、大竹市独自のやり方、これがモニター制度なんですと言われればそれまでなんですけども。私の思いとしては、そもそもモニター制度いったら議会のありようとか運営の仕方とか、そういったところぐらいまでで、政策について話すのであれば、それはまた別のシチュエーションで、例えば広聴会とかそういった形で皆さん市民から意見を求めるんであって、ちょっとモニター制度からは外れるのかなという感覚を持っとったんですけども。1点意見として付け加えさせてください。お願いします。

モニター制度の範囲がどこまでなんかいうのは決まっていなかったんで。

○網谷委員長 また、話が元へ戻ったような気がするんですね。

○北地委員 元に戻りました、すみません、早く言えばよかったんですけど。

○網谷委員長 分かりました。

今、小田上委員が言われた皆さんの協議したことは、必ず入れればいいのではないかと私も思います。

文章があまり長くないような工夫をしながら、やっていければと思っております。分かりました。

この辺で、よろしいですかね。

方向性としましては、前向きに取り組みまして改選後の新しい議会に委ねるということで、よろしくをお願いします。なかなか難しい問題でもございますので、皆さん言いたいこともございましょうが、その辺でこの件に関しては区切りとしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは、日程第2。6月は改選前最後の議会となりますので、通例では中間報告が要りますので、今の協議を含めて、中間報告を私が作ろうという自信のある方がおられましたら手を挙げていただきましたら。

〔「委員長が作成」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 委員長報告ではございませんので、議会改革特別委員会の中間報告で、通例は委員長がやるんですが。

(発言する者あり)

○網谷委員長 じゃあ、私と副委員長共同でやらさせていただきます。また、次回、修正があるかと思っておりますので、副委員長と協議しながらつくってまいりたいと思います。次の委

員会の1週間前にはサイドボックスに載せますので、しっかり見ていただき、次の委員会でスムーズに修正なり完成された文章ができればと思います。よろしくお願いいたします。
よろしいですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 それでは、副委員長、よろしくお願いいたします。

そのほかはございませんかね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 なければ、次回の開催日を決めたいと思います。5月の10日はどうですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 5月10日、水曜日ですよ。

〔「10時からですか」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 10時です。

以上で、議会改革特別委員会を閉会といたします。お疲れさまでした。

11時28分 閉会